

Brooklyn DAC+の活用(3)

ーヘッドフォンー

1. はじめに

Brooklyn DAC+にはヘッドフォン端子がありますので、その音質を確認します。

2. Brooklyn DAC+の試聴方法

Brooklyn DAC+のヘッドフォン端子は二つあって正相と逆相の信号が出ています。別売りのアダプターを使用すれば、バランス駆動も可能ですが、今回はアンバランス駆動で聴いていきます。

マニュアルの 9.2.4 Output は、次の 4 つが選択できますが、通常は、AUTO にしています。

HP：ヘッドフォン出力のみ有効

MAIN：ライン出力のみ有効

BOTH：ライン出力とヘッドフォン出力の双方が有効

AUTO：ヘッドフォンを装着するとライン出力はミュート

音源はアナログ再生と USB の MQA-CD リッピング WAV 音源再生としました。

ヘッドフォンは、Sennheiser の HD590 を使用します。



3. Brooklyn DAC+の試聴結果

ヘッドフォン端子は左側の正相と右側の逆相を聴き比べてみましたが、曲によって違いが分かりにくいものもありましたが、やはり正相の方が自然に聴こえます。

アナログ再生と MQA-CD リッピング WAV 音源再生とも、満足すべきもので、ディテールの再現も楽器の質感も申し分ありません。

4. まとめ

Brooklyn DAC+のヘッドフォン出力の音が満足すべきものであることが分りました。

以上